

## 第2回 阿賀野市地方創生市民会議 議事要旨

### 1 会議の概要

日 時 平成27年8月6日(木) 午後2:00~4:00

場 所 阿賀野市役所 403 会議室

出席者

#### 【外部委員】

田中座長、芋川委員、上松(昭)委員、上松(和)委員、小林委員、島田委員、武田委員、田村委員、永松委員、羽賀委員、服部委員、百都委員、渡辺委員

#### 【市】

田中市長、圓山総務部長、井上民生部長、土岐産業建設部長

市長政策課：中野課長、苅部参事、菅原課長補佐

社会福祉課：小菅課長

農 林 課：小林課長

商工観光課：飯野課長

### 2 議事概要

(1) 阿賀野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(骨子案)の概要

(2) 委員からの意見と提案について

### 3 主な意見

#### (1) 将来展望人口の考え方

- 県理想出生率2.4はかなりハードルが高いと思う。自然動態は国理想出生率2.07または県現実出生率1.8として、社会動態を改善する(国立社会保障・人口問題研究所推計値を上回る)目標が現実的であり、市民の理解も得やすいのではないか。
- 出生数を増やすことはもちろん大事であるが、長寿によって自然動態を改善することを目指す、という発想があってもよいのでは。
- 行政が出生率をコントロールできるのか、という素朴な疑問がある。

- (出生率改善、転出抑制、転入促進、の3方向のうち、) 転出抑制が一番現実的な施策と思う。市内在住者の定住を軸に考えてもらいたい。
- 転出抑制を核に考えることが大事ではないかと思う。
- 「人口が減少しても、阿賀野市は良いまちだ。」という感覚を持つことが不可欠ではないか。自治体の理想人口は7～8千人とする論文もある。
- 阿賀野市は、合計特殊出生率と婚姻率とも県平均より低い、どちらが人口減の主原因となっているか、さらに分析が必要。

## (2) 市の魅力などの情報発信、アンテナショップ

- いかにか阿賀野市の魅力を情報発信していくか、が大事である。首都圏内に市町村単独のアンテナショップを設置している自治体もある。首都圏に向け、直接情報を発信することは有効であると思う。
- 市町村単独のアンテナショップはかなり費用がかかるので、まずは首都圏に出店している事業所等と市が連携していくことを考えるべき。
- スワンレイクやヤスタヨーグルトなど、既にブランディングに成功している事業所の協力を得て、PRする仕組みづくりや第四銀行の「ブリッジにいがた」を活用したPRを継続的に行えば、本市の知名度も上がっていくと思う。
- 五頭温泉郷を始め観光資源のPR、市の魅力発信をすることが、人口減少対策につながるのではないかと思う。

## (3) 阿賀野市の魅力、地域資源、特産品

- 世界的にも21世紀は「水の世紀」と言われており、貴重な水資源がある地域は、評価され選ばれる地域になる。“水”を強調するのは良いと思う。
- 酒好きの知人が阿賀野市の地酒『越後桜』を評価していた。まだまだ、誇れる資源が眠っているものと思う。

- ヨーグルト、地ビール、造り酒屋、醤油工場、豆腐屋、和菓子、三角ダルマ、染物屋、太鼓屋、焼き物、瓦、農産物、B級グルメの白鳥美人、といった特色のあるものをもう一度見直すことも大事では。
- 市民が（市を）誇りに思う、「これがある」「こんないい所である」という意識の希薄さが社会減の要因になっているのでは、と思う。

#### **（４）地方創生のための参考事例**

- 東京都江東区など、子育て支援の充実を図り、若年層の転入が増加している自治体に何かヒントがあるのではないか。

#### **（５）総合戦略の基本目標と方向性**

- 骨子案の概要中、基本目標・方向性はどこの市町村にも当てはまるように思う。もう少し、阿賀野市らしさ、色合いを濃くした方が、国に対するアピールにつながるのでは。

#### **（６）総合戦略策定のプロセス**

- もう少し幅広く市民の声を拾いあげて、市民自身がまちづくり・市の将来を考える場を作ってみる、などあってもよいのでは。

#### **（７）事業実施における考え方**

- 特定の企業に偏ってしまうが、地域のブランドになっているものは、市はどんどん応援すべき。それが、市のためでも企業のためでもあり、税収増につながれば正当性はあるものと考えている。
- 特に取り上げたい事業を絞り込み、予算も集中して期間限定で取り組んだ方が、特徴的な事業ができるのでは。

#### **（８）移住施策の方向性**

- 新規移住は相当ハードルが高いので、まずは阿賀野市ファンを増やす施策が必要であり、それが「住んでみたい」に繋がるのではないか。

### (9) 公共事業の考え方

- 既存施設を有効活用して各施設を複合的に考えることが重要。例えば、高齢者施設と公園施設とを複合的に整備すれば高齢者と子どものふれあいの場を創出できる。

### (10) 農産物等販売所の整備

- 農産物加工品を作っても市内に売り場がない。6次産業化を進める上でも、道の駅に販売所を作ってもよいと思う。

### (11) 瓢湖周辺の整備

- 瓢湖とその向こうに見える五頭山の景色が市内で一番美しい景観だと思っている。瓢湖近辺に施設を建設すれば人が集まるのではないか。

### (12) 公園の整備

- 阿賀野市は公園が少ない。天朝山公園は、遊具もなく、雑草が茂っていて遊ばせる環境が整っていない。

### (13) 子育て環境の整備

- 子育てしやすい環境が人を呼ぶのでは。また、亀田のイオンや新潟市民病院のように、一つ大きな施設ができると、周辺に様々な施設や働く場が作られ、人も集まってくる。現在、本市も病院の建設中だが、周辺に緑の多い公園があれば、子育て環境が充実し人が増える。新病院建設の今がチャンスと思う。

### (14) 温泉利用型健康増進施設

- 厚生労働省で「温泉利用型健康増進施設」の認定制度というものがあつた。平成27年4月1日現在で、全国で19施設しかない。阿賀野市で取り組めないか。

#### (15) 都市との連携

- 交流人口を増やすのであれば、姉妹都市の締結や提携都市として関東地方でそこそこの人口を有する自治体と連携すればよい。ある程度ターゲットを絞るという戦略も必要ではないか。

#### (16) 金融機関と市との提携

- 中古住宅に対する移住者向けの特別なローン等で、銀行と市や県との提携、といったことも考えられるのでは。

#### (17) ITの活用

- 現在の若い人たちは、買い物を始め、携帯電話やパソコン等でITを用いて生活している。ITを活用した仕組みづくりを考えていった方がよいと思う。  
例えば、「(ITを活用した)レジ待ち無しで買い物ができるまち」はどうか。最先端の切り口で生活が変わっていく面白味のある地域を作れば、若い世代は魅力を感じるのでは。

#### (18) 特色のある教育と支援事業

- 子育て環境の中で、学校教育は大きな要素を占めている。特色ある学校教育は保護者にとっては、魅力的な要素の一つである。  
温故塾事業は、現在は水原中学校と安田中学校が対象となっているが、将来的には阿賀野市の全中学校に範囲が広げられると阿賀野市の大きな魅力になると思う。一層の推進をお願いしたい。

#### (19) 観光事業の拡大

- 観光を盛り上げることで、外からの客やファンも増えると思う。土木や建設などの公共事業をよく精査し、観光に振り替えていくことも手ではないか。

## (20) インバウンドマーケティング

- インバウンド（外国人観光客）の取込みに国、県挙げて動いている。（メインターゲットとなる）中国人・台湾人の新潟における観光は、新潟駅前のビジネスホテルに宿泊し、駅ビル内のドラッグショップや家電量販店で買い物をした後、東京や大阪に向かって出発、という動線になっているという話である。現在、インバウンドによる賑わいは新潟駅付近だけになっているので、それを阿賀野市に導く仕組みづくりができないかと思う。
- 五十嵐邸ガーデンなど県外に誇れるところと温泉など地域資源を上手に組み合わせると、インバウンドの半日程度のコースにもなり得るのでは。行政と民間が役割分担をして、うまく繋がっていく工夫も必要。